琴後集

三

特1
2223

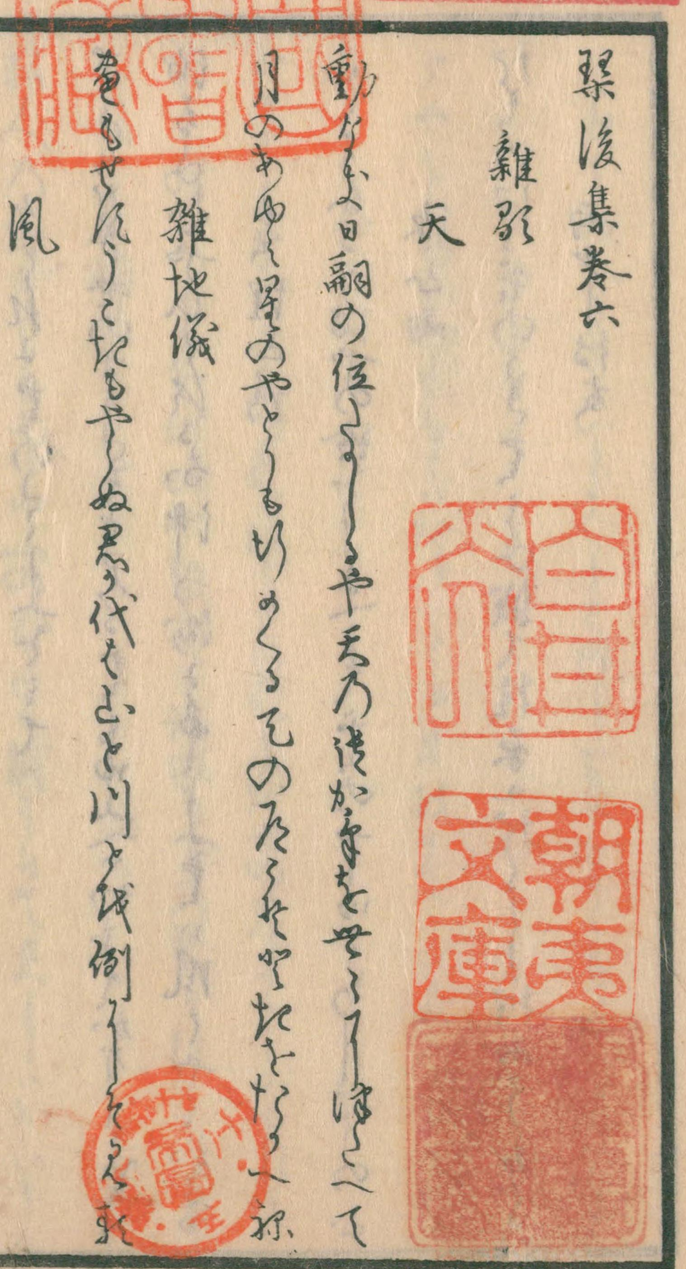
国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

琴後集巻六

雑歌

天



雑地儀

風

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

特1
2223

かゝれ雲を峰のあらしのさそはすハせまゝる寺もありと志らめや

雲

ゆくへなれものとや雲をわきていはんまさつまし人の此せり

夕くれは雲のこゝよふをとして

さらめなき世のすゝこそとゝ見る雲もゆふへハわよそかなしかゝ

泊るよむやひまゝるか沖つ浦よ魚とよふ雲ハ風もやこかも

雲埋山語

もゝかゝるう浦やの鈴をしるへまて雲の中ゆくあしからの山

深山雨

たちのほる谷のうき雲こゝ鉞て松原のたくらし村雨ゝ多る

雨中待友

清しくのかゝめよいまくらさ浦し笠やとうも人ハとはなん

夕やこ

夕やこふあさちゝもとハたとるとも月待てゝとふ人もの那

山

山としもなしらハこの身をかくさなんうれせの蓬よしつもれけし

やまとのこつもるを何のかひとてう詞のちゝ乃蓋そはるし蓋

名所山

旅人乃ぬさとも向るゆふの山こゝ鉞てゝめて名てしハおひきん

天香山

日の雅すつりさきこれハ大黒乃佐門おほゆる天乃かくやゝ浦

富士の山ま雲のもとをとて

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

うしかた

ゆきしかたを何とかなしとかていまん消をあらそふ人のこの世に

ほりかねの井

汲そめし人いこゝの世の為まとてなほりかねの井をいのこせ

仙家

とましへにちらぬ不ある宿なれや霞の以後もくれなゐまして

閑居

身をかくすたらひとかこうその居にことなくて世をゐすれそ

とはもぬを何かなきかんしこともむすふすしかも友なるものを

世のことはふひとすれつきふもまた草のすさみに日をくらすを

深居燈

よのことはそむきまてゐる窓のうちになとしもし火の不をこはらん

鏡山の名もとに世を隔れる法師のもとへ

くゆもなきん乃月のかゝミ山うた世のちりをはらひてやすむ

林下幽閑

村にはのれのつゝなる琴の音に苔のむし詩乃葉はらふなり

隣

子をおもふ心ふれとやなりけしの移もやすはらうけもとなりハ

君ゆきてかへせるものをみやひとの隣しめつとかとなのこせん

窓

風ふきまれ南のまとのうしろねにあらりさる世のんをそしる

よはしきまゝかり柏木如亭の郎のくるをおくる

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

山口至言の母としをともなひて身延山にまうけるつ
え政上人のあるきためしもらひおくれてなんいひやりきる
そをへてもかきやすむらん法の月むかしの跡をてらしてもんよ
小浮なふかしの香取にかへるをおくりて
いさらはとねの河ゆかりのへすまことひ来まや波のよるへを
贄茂季穂の父のこちまつらふときてとく都へ帰かるに
わかるとてあふきまそへて
ゆきつくてもやくあふきの風しあれいかのあつしさも黒やこれん
法くしへ下らんとする人に麻毛なる馬をおくるといふ
ことを題にて
ほくしかた月のゆくへは遠きれとんをのきるたくへてそやる

もの〻海する人に扇やるとて
黒に海にあふきてふ名をこのむるは風のこよりをわすれすもあ
くまなくさはれもひも出よかたほりのおもるはかりのおそ
かくしふ人の遠き國へ海するに猿をとらんとて
いのちあらはさらにも黒ともへかくそむかくんまそのかこそすたこよ
疑波へゆふ待らんとしきる時よみて友こちのもとへおくる
ぎる
おしてるや疑波かり江のあお風にすむらん月をひとりかもこん
旅宿夏
ぬるうちはわすれんものを海山乃うれをまこそる夏そわりなき
山家

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

なほまれるせとて呉ふの中にしらふなほ人さとの数そはりゆゝ
此さとにふくれりめしそいつのせとにふてしそとはゝ桃のこゑもと

山家雲

まんるかうそに庭のまさもうほゆれて谷よりのぼる峰の雲

山家夕烟

みよの唐まさしやましもの夕きつりんほそさ波元ましやて

山家夏

なりくしにかよふ夏こそあまれなきうしとそむきし都なれとも

山家待人

家やまのもみちをとき秋そたくせまほくしきとりもとまり

山家送年

ぬまなれもみちはあまそ山さとに世のさましして年を見しか

田家

いと海あるせしの河まりと姫乃をとり海とりかくるをこの所とも

濱ゆふ

みく海のゝ濱のさ風ゆふさしとおもそもしへの波乃よまれもとくみる

岡篠

せこえなくゆふしのをさしに京おもなしあへす家そみたる

江松老

すみの江乃松や神代のこゝろなしん老ぬそふ名もふ年へ是り
大井河入えのまほそそのすみよむましをとひしかきよやいあらぬ

柳

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

はつり子のゆへとりかくる玉串に神代のあとは以まものこれは

ゆゑる繋

ゆつる繋のゆゑる君幾の色にこそ立さりゆへき宿のなめしは

志きみ

明くれのほとめにゆまぬ法の者に法ことなめや峰のしたこを

鶴立洲

あしたほのこそ立きり沈月のあしのと波よるとみしは

曉鶴

曉のうきを法をしはむすしまそ祝さめなくさむとりの歌なり

牛

引うしのたくひなくすやに車のまれとうき世に法なりて者は

猿

谷ゆゑ繋に色そふ木の繋さる秋とふしまをかつゆゑもなし

瑠璃貝

青海乃以後にまくるいさら貝波すきわきて青れすひろ心し

書

天地のとはきましめもみてそしる神代の書を今に法とへて

よしやその子世のつる君ありぬともふこして意き欲は得る世

引うしのあせにゆるまそ法こそへて有りぬるふこの義そしられぬ

披書知昔

くるまり此よのさまもしらんなこて意き欲をとはすは

神代正陵考をこてよめる

すゝれ

かまうめにすきはおかるいよはれ月もれとてや作り初きん

かさ衣

中しくにかくりもおすはかさ衣やくるおもひそそへさしはしを

袋

きなくせるとのゐの衣の袋こゝりあくる人めを待ちむせきれ

帯

紫もみとりもまはふこや姫のゆきとの帯そ世まこゝひなき

あや

まゝ事のは屋をさなりあくさはやこはあ機におれハ成らん

車

行めくるゝ里のさてもに車の詠をかはしぬ君の後代の那

帆

風をうしゝ門戸すきけり沖つ舟待る帆なはやいくよなるらん

たくなさ

海士のこゝろ子ひろこく縄なくせをくるしとのこやうみをこるらん

火とり

待れしの友となくさむこれものにひとりとのこは忘れさりきり

ほと

あかしかた沖なの月の玉なくハひろ玉てこよひ演つとにせん

かくみ

みなときにこゝける船なのかくこゝろも待こゝ杉のさしとなのこゝはるか

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

梁

梓弓いるよりもやくみゆるかやかせるおほるものしら波

奥梁

梁うちしむすしかたりやほのえ乃かれて世ゝに志のひかすし

古壁苔　以下卅二首詩題

雨もるゝ軒のひさしの法を朽て苦むすかさらいくよへぬらん

垂洞蘇

世まそむくかた山ほとの青法らすむ人あれとくる人ハ遠し

嶺上雲

こゝ誘ありてこゝろともみえぬこゝろの雲なる新ゆふよりかへるらん

幽径石

むかしこれ魚このむとて路の人にふる引のいしもひきおしまん

除軒桂

風きまれあまを軒さふ待とりて月乃かつらの花もほへる

林中翠

雨もるゝ楓ましものなほ木もち風もみとりなかひくとそこる

棲烟島

青柳のゆふ暮ゝつる枝ゝ花に祢くらさしむる村ゝうすの那

寒溪草

溪ふかき雪のしら草さかりしに春もあまて年をつむらん

陰崖竹

世ようときかたにおしにまつる竹さしもむなしきんをそこんる

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

姫人怨服散

ひとり身をなせもとかとの祢すゝんこの為にとてをしむ命そ

愛妾換馬

うゑおはしにをはをとてよそ人の手まひの詢なかとんひく

銅雀伎

かこみそといふもうらなしかくしはこゝ立まふ袖を黒ゝ海やハ

宮人斜

秋風の霞ふきむすふ草のもとゝ以まもかさしの玉をこそみを

孟門行

なきさむる世の風のこゝろくらふれハ岩根なむてふ山ハものゝハ

閨怨

まのよの夏のまはのやたのむとん蓬となる身のゆくへ志らすそ

舊宮人

むすしへやそもわすれぬ宮姫のなほつりなれぬのかさしは

短歌切

なすしてふまも一時さしふにこゝ詠をやとていつをまゝ海し

小桂仙

三子とせになるてふ桃とくひてる趣やほしのほすひなるゝん

まれもさ記もみちもそめてまゝ秋を岩ひとしむるつゝの宮

雲のうへに袖をつゝぬるあまをとめ月のこやこふすむやいつまそ

たゝまの渕となる世を誰しるいはもと菊乃露をしふまふ

時のまふ波穂なみまをいくふ里よもおかしゆにかへる山人

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

山のつといひなくしそ世まつれは誰も為をすなとさいる身之をり

人

うしといひ衣とおもふ程なくいせまことの聖も忘れさし海し

思

よしあしを以すし今とたとるまはいさぬおもひもある世之をり

元橘立

神の世に神のかよひし語なれや雲ゐに清く天のもし立

子世古原

ゐみなはなる世の古原ことしめやん乃さすてよし海よふとも

日本紀竟宴に天武天皇を

いすつもの御きも絶て天地にこゝをひしことそ清しかりける

本居宣長の古事記傳出まてる竟宴のうたにしひ出るに

神直日神を

まのつひのあらひ何らせしと神直日神のみ名母やあれましにそれ

ぬひ子の敬て人々枕草子よみまてつる日ちかくて

とほきものといふことを

年にそいはの宮をたまと世つよりんはしやまるをかるらん

万葉集の武藏歌になれらへてよめる

ちゝの実はちゝふ乃山のまゝかすみまるまちしよりあさ敬しこは

いさらは朝菜はまゝしむさしのゝをくはり雲もおとをにをり

時つ風仲つくしもむさしの海もし母人そふなよそひする

むさし野ハ志もとかやまゝ志をれいさやまもミえぬ玉乃横やま

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

いさとゆひてとゆふそむすん人もなしせいうきものとやひきれとも

渉遠述懐

なきすめや破のしらぬみすくれて人ましられぬたくひあるせに

ものおもふ比ひとりことは

うすれをとゝはあひすくはん人しあらはかくまておいせはさらはし

懐舊

なもすれいなりぬるせとてしらふ身を老のさりとなおもひくしそ

秋懐旧

むすしへをこふる泪と家しくれいつれか秋ゆふり海さるらん

月前懐旧

おもかきもみしせまくる秋なれは月のかゝみもむつましきか

いはとてもかなしてむすふ秋の月みしせの人もかゝらぬしのは

なしせをしのふの雲にかきやとは月もむすしやわすれさりきん

寄夏懐旧

人のせを夏にもかもなゆめなりはさめて苦みし立場ゆしし

いのてわの身をといふ句をおよて懐旧の人を

年なれはこゝ夏とのこたとるせにいのてこの身をうつくともみん

夢

数しらす宵くことをみる夏をむつのしなとは誰のさらぬし

往事如夏

志きりあふ夏の塚もしのつくんをまむつれしまを夏とは

月前雲花

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

おなし比子え子の名演の莊まてよめる事をこそその
こゝ詠よあるへしとる事
法ことはやはり人やもいつこ誰居りしかたぬのすゑれ春をわすれぬ
なきさ人をあつるなす所にかきうつす事乃おもてもそれかとやこし
いとゝ思おもひしるゝ川名のゆゑそかへらぬ世をうきせと法
子蔭の一めくりの見に和繁送秋といふことを
もみちまのゐるなくひをなきまゝ法こゝ此しも秋に又や別まん
中さ題をさくりて養秋懐旧といふことを
とゝ浦くぬ秋をあはれといひしてむすしやいとゝ意さまりなん
おなし人の三とせの見に月涼秋思といふことを
春秋乃すゑにあまたゝ所るの中に月をあはれといひし思ひ

神祇
神代より神のことゝせる号を海ありとなせる國そこの玉
玉地乃神やすゝめし萬代にしたてしうこのぬ玉のみもしら
まくゝ所とうこれなりす見てたりの玉の志るに神代の例をそこに
百年のせまもうこかし玉地乃神のすゝめし大和しぬ祢い
寄拂神祇
かしこやこの海さまきいく代建て志こさひ年くし神の法前に
住吉
たくひなよ光まもあるの住のえ乃礒さらなくす波乃上の月
揖取神社
かとりかさ百年人乃ぬさしゝ得る神のこゝやゐいいくせへ年ん

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

社頭榊

ぬくしへにみむ詞のさきたるゆくい神代の稱やいさひとゝめし

社頭名

ゆく河乃さゝ和なきたと茶代りしいさひそめもしみくまりの神

人の賀によるもの島をはらうたる海濱にそへて

さむしへによるもきのしゆの島とをありがたひつゝ君社人見め

宗什の四十の賀に

かくしたゝ子世も色なほし松風の舞をともなる若のあるしい

其を菜を好む人なるによりてかくなす世

原沈法師の四十の賀に

心よりたのかきをしめたる若なれい若の袂りて世のとちなる

白川の將君の五十賀に

たゞ玉の志はめなれとて民くたもの世もと君をいのらぬいなし

演田の君の五十乃賀に

咲されもさりゆく色を見する和君の子とせの玄をまたとて

佐賀の君乃六十の賀に寄鶴祝

海原や子さと乃波にとふ鶴乃さるのなる世い君そ志るゝ世

寛富市河藤の六十の賀に六稱のものを題まてよめる歌

硯

君のこゝろたくへていひ見め光磐なる硯のいし乃命なりを哉

筆

世に遠くかをうさらめや草の上にしをおるされいひろことにして

墨

おのつから老せぬ君のすがたとそ子世もまほせ松のそのかと

鬼

市まうの鬼も浦まにやなりぬらん黒のこと繁を世に傳へ有れ

琴

法ま琴のまゝ乃ひてきい吟なれつ夢ゆる人のたゝひ有らねと

盃

も後人の君にすゝむるさゝ法おを有もしみてそ子世い繁乃ん

子蔭の六十の賀に破山にさくらの花咲るかゝを

淑演に法らりて波にはれのうつまるかゝと盃のまゝ

恵にかなてそのさくらのもとにおきり

わゝ法ゝのやこよの波にかきうはせ破山さくらあの後もある事

おなし人乃七十の賀にくまゝ人のこゝ乃子をもり

こるらいしに結つきこる事

くまゝ一しゝ子世ハよはなんいふともかひあるまをいまふ浦とゐ

人の七十の賀に鶴を

乞とふや鶴乃毛こ後も神これてきたゝ有らさん子世もやちよも

年乃くれに人の七十乃賀に

あらしに起まゝ待つきん君なれもわすゝへまゝ法ゝ子世もすめ黒

人の八十乃賀に

す清意きゝ子とせの坂にくらふれも八十詠い老の身もとこきり

神京ぬし乃あらしに司陽こるをよ後こひて

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

為車引入つゝ見く以まゝりもいとなみはしれたるき門をも
志ましたまゝり大久保忠陽ぬしの法のきえ給へるを歎ひて
神のいろのみとりハ春に先とそつあきをも染よ秋まるすして
人乃むことりしたるをいまゝふとそ淵鈴といふことを
志ま波ゝ子世のよはひやちきるゝん浦もの法るの翅なるへて

祝

天地乃神もしらしれかみにをさ浦りに来る法代のゝあれ

春祝

朝日さしこまゝ乃松ゝ子この世を立かさゝるまゝ霞ゝ事

夏祝

かまりなきいのちはしてふあやめ草黒の為まそ来ふいひのはし

秋祝

あまた人法とふ市詩にことゝへ年ある秋世まゝへぬいかし
秋ことゝ陽はまゝの数そふもをさ浦る法代乃ゝあしとそ入る

秋祝言

宿こゝ世ゝ子五百の以祢をかりつゝて足穂の秋をいまゝふ星のか

冬祝

霜ゆまゝあせぬとこけの深みとりゝ子世ゝ法のえのみさをしそゝる

寄星祝

黒の代もほしのやとりをいくゝ子度切めくりてもつきせさるゝん

寄巌祝

まみの代も下つ岩根のかゝきれハ世もまゝうこのぬ家もしらぬ

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

雲のまゝ松さへおゆる岩ほとう動かなれ世のこゝろひまはせん

寄弓祝

あはさらしこゝ詠ことてよもの山の海もりわすれぬ世こゝ安きれ

寄龜祝

松のみ身にいたくく龜の名もしるしかめのよはひや君世ながらほし

寄松祝

志ゝ雲に枝さしかはれ峰の松としのこゝろさもかゝれとそ思ふ

花を喜色

いはる日のひかりにほふ朝霧をよもちよ詠てへるまれの色ぞ

竹遊年友

明くれにかはらぬともと思しみも味のこゝ詠も子世まなひん

竹不改色

君のすむ君のこゝ名作る世ふともあせぬみとりの色を社ゝめ

多

おみの代のたひらの宮のやちまたにはかかふ人そ数も志られぬ

舊

日の華葉かつらにすかるほつこう神代のまのためしこそれ

玉梓ハとるもあやなし紫乃とひ松れたる色とみしより

低

不ひくき身ハつるとみの布衣袖のあさ紀もおもひのきめや

後

ひれとこの身をしよそへと石の帯乃うはそさんをいみるよしそ遊ぶ

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

釋教

その苦ふ法ゆもまゝ所なこ詠もそんをあらふ法乃も詠人

勸持品

ゑゑひなき薫を世しに傳へよと法法乃も礼やひらき初きん

如是相

あのよにうつろふ月のおもすけいあるもとゝゆるも何か法ゆかる

自寛の家乃うちの一月に觀音大士を安置して

供養しまる日如晶の数珠をおくりまるにその名の

あらに書つきしる

曇まなき心ひの玉をもなしたれたのむちすひやゆすけさるん

おなし時人ことゝもふ題をさくりて殺大清淨頌

といふこと城

人ハ乱ゑ詠きちすひの法をへてふことゝぬ法乃こゝ詠ともりな

ひしまの法代の

いましへの記しまゝ乃此代のこゝめしもゆひくしへん時そこのとき

かひやなすらん

志ふともかひやなすらん来ふまれあ法ハ聖心をけ摘てなけ

ミやこのもつり

も詠人の苦をしのふことはこそなすらのミやこのもつりこまれ

かよふこゝ詠の

君に来ばともなすひつれてけ居をかよふこゝ詠のしるへすけせん

掛名

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

うし

ゐるのうちのこへぬあつさになどひてや月のまきをもうしとみるらん

志はこ

淑をもやこそこはこくつもなりまり見るをあらふ識の志ら彼

う法せみ

ゐらひうつせこの小河の清き淑にゆふとりかきて友いくらさん

すこすをいみ山にすう法せこやこ人すらきうれよのさりいとひない

かりひのと亂

一重きるたゆもう知まていかるひのとなかしくも照増るに候

やよひのす儒つすこ人の家にゆふまるにその一

まんを草といふくさのふあまて咲こりまるを家よめと

ありきれい

まゐすきそのふにたまもあくかれんきたうこひすの都老ぬとも

まうゐん

若むせるいさめのつくみ誰せよりうこんうこしもとはてるきん

あし話人波にわらちさわくこうこんとやする淑このゐらひを

折句

こ海むすん

志ちす海にふまのく海弓むやひしてかしゐりこそ人なみたるしも

あものくふ

あすほみんもるもはすのくはすさふくもを斗すほふ桜を

施頭家

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

子舊ゟ家まて前聚集竟宴しまる時題をわの
ちて懽うことといふことを
かくし清く思ひこわらひみちの人ともたちの事ふむ庭に
子世にしなしさん

琴後集巻七

題画歌

井に朝日うはきりくむ人あり
朝日のまをまほへるまのわの水に子世のさりえやくみてきらはし
山里にすむ女子日する和
ものつらかきてや子世も契らはしこれ住山のまはの二聚り
わの菜摘とし詠
子世のまてちきる小松乃すり夜なそこやつまめ聖へのわの菜を
家を分て山寺にいる人あり
ゆくさに家む山詠をあまれなる詠をしもせに屋ろうと思へる
梅の志に

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

まとひをる女がらみひさをなとしてあり
やるほそとみゆるすまの初まとひかこうつむもんこうゆき
わらひすまれの恵に
春の野をゆくてのすまれ下わらひ法こてそまふの歌つとせん
清しくしの絵に
清しくしき春のしきといふめれいかすみもそへて家つとにせ其
女柳の枝をひすくてしそうり
袖もへてとるほそ清ふ春柳のおなしみとりをかさみきつれも
柳おかする歌に人来られ是
こふ人の花乃ちもとそたしなしぬ柳におもるやとのタくれ
人の歌にやなき桜あり

まし起もそかこふ垣にとこえ法るいやなき桜のかきにそそたける
人しくしの花のもとにあそふ
桜もれあれとしふやいふのむへきあるぬこ詩にまふいまのせん
花ゆし人さんらのもとにとゆきる
光ゆふむ花なるかしに春の野をわかなしたるもれのりきふ
かへるさもかしてみるへきふなしに誰のさくらに心おのゆし
往来をもとしむる花のしほひこそ春の旅詩のおしこまれ
みちゆし人桜の花をこそ言をとしむ
駒とめてあしまそいこん山さんらたしに返へきふのりきのは
人しくしもれのもとにねしる花
おもふともん風こそぬふのもとにひもときさけて一枚あのはん

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

厚ゆゑ乃わかこ遠きたるゆゑそわきもら由へき心詠之きれ

雲荷のおりゐたる恵に

あるともゆえぬ雲のゝ夕ひとりすみれの床やわすれかねぬん

人しゝ雲の雲まあそふ

おもふとちすゝれ搞つゝむらさ紀の根とふ横雲に半ふいくらん

雲をめて身をあたれむ雲のゝいたら詠しのすゝこ之きり

曲水宴かよたる恵に

蔵うかふ波るの雲乃さり清ぶに身るきためしやくみて志らまし

さ乱のもとにより来る波の盃をなかれて遠きためし之きり

もしの雲を女とものをる雲

和のおろしめ乃神とゆゑ乱とるもゆゑほふもしの神雲

海棠を

雲の色をゆゑよとりいたうまほつゞん鉢をもれる雲の梢を

心吹さ紀たる家に人来てゆゑる

ゆゑ雲をさらさらめよ心ふきの雲の籬を見てまほして

よき女蔵のさ乱をもてあそふ

紫乃い詠ましほへる蔵のさ乱か居ぬる神しいさくらへゆゑ

公牡丹の絵に

月雲のおよさ志ら詠を一雲のまほひにこむるゝみ来ら

神に清る雲

神のまほ杜のまほ居まき夏とそいゆゑして是ぬ下つえ自遊

卯雲さきり月あり

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

月次の屏風乃料　十二月に垣山

大原や神乃ミや清こ都まゐすなおしく斗賀れつゆれる

神樂せゝ所

手伝をきの苔れ仁えて人もうなちまゝ神も神さひ事り

年くれて行ある家

かなてより春の色なる所垣さかしのさすひも居こそさゝ老

松に朝日乃絵

すみの江乃波もまほひて朝日子の新さしの浮る屋の松の所

小倉の君れ六十の賀に松の絵にかき御書る

も諸人の子世に御さくとうたふまそ山松うえも都あさせける

居所人きしのほとりなる松のもとにやすみて彼の

よるを見るかな

波あらふ所きは清しいさこゝに松のまくらさしまし給ん

松と所とう見る所を女こる見て

松もふことかなくぬ中もなりけりやる世のともなる松と所とに

靈芝の見て

多くひなき種とこそこれ石のとに子とせを集ておける初草

岩のとに鶴こそ

岩のうへにむれゐるつも夕しほのさしまひれて満待ひせり

鶴の見て

唄ぬとて先つきそむる初とりれ都にてこそ〳〵ゆやこ見まな

きぬしにうれをかこさんをの者を老い松さめの友とこゝろきけ

龜の恵に

うれしまれむものとおいひそ河ものふこりにあらる身そやすけなる

蒙星の絵に

子世はまんためしにみよと此神乃かしらの雪やすくかさのし

うさぎの恵に

くれそむるをふかもとの志詠うさぎ月の新とみそ浦へ渡る

桃花源の絵に

かくれこの春やいくよの名殘そとふものいはるとはまし抱を

外夜の菊乃恵に

あまれとて世すやはさへしなよ毋の此てつしの昔かたりは

碁うちたる所

何ゆ見のすぢこなれたりも詠ともにあくおもしろそうちむすふん

白川が将殿にて人こなみゐるさ母を見てしかるせ

給ひてこれに安ひとつとあるにおのかかたもそのうち

こりあれも

きりにあふもうれしきりうはし見に姿とむる半しのまとゐも

とんなのはしつ恵つきたる所

後のこはしふおもてにはしつ恵のかひなの世とやさひしくて世

うれめの母のまとるかたを

さしめなきよるへを波に浦せつて法なる母そ身のさらひなる

京の家に市女来り酒うる

もろともに破をすゝめよ立浦しまおのあるのことかたるとて

そほつの恵に

大きくも田子ハうきまそこもなしに秋そほつハなれ汁のは

築具いまこう法もの絵に家かきと人のいひきれハ

雲をとるすほこもうれしかくれかの松乃あらしに人すむよは

ゆふの山の恵に

茅代にし神さひこそるゆふの山そしらひ雲もなりとしきり

あさ海の山の恵に

あさ海山神のいふきの霧されて雲井にそる夕きつりに

二神の絵に

子茅のよりも動かし夏に神のゆきめくらしあ矢の法柱

よりも鶴に玉のうてなりとあるかに

きれやこの家法にはまて浦し母の妻とひしきれ口こつこの宮

海乃ほとりに風なき法にて

風をいこみ渚にみそよせ来なるあましのと法者もとし詩に

瀧の恵に

誰にあるさしせる布そ表さそ名あまりは和紫の色に深つく

たつた河乃恵に

もみち紫の流きて花にうめくるいに水の秋をやさいにやしめし

紫くたしの絵に

なかれ来る志紫とるとや下つ流にあらそひ出るうちの河夏に

越の君乃和才の古屏風の絵にし

正月　子の日する家

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223　ガラス使用

引うゝる子日はゆつのかきことよ子世をおもてもみゆる君かな

二月　いなり詣うて

身ふことよ枚の繋の詣すいなりこみよとまむまて人そはとへる

三月　弓車のまて人乃ふみたる所

桜ちれさく木のもとハ春霧たちやすらはぬ人しもそなき

四月　卯ふある家に郭云也

郭云なく春そたえぬうのちれのまぼふきよをゐるそまして

五月　あやめひくとゝ詠

深みに根なりておゆるあやめ先葉まはそそ子世のためしまはひき

六月　はらへする所

秋風を神にやとして御らまし夏をはすてつきふのこそきこ

七月　きれはたゝまはるやうろ

きれはたゝまかし詣る琴のいとせ先てあのぬつのれをしもとしめよ

八月　詣りとのに月をゐる

なかもむれハもまとる沖松しまの下ゆくあにやとる月かな

九月　人くしきくをゐる

老をしもまとしむとしおくなれハとまそぬれんふの志ゆくに

十月　女ともおくふひろふ所

いさしらハひろふおくを神の色に白ひかはしてきふいくらさん

十一月　かくらするとゝ詠

詠まし琴も笛もしらへをかへてきりあさくらうらふ夢を詠えて

十二月　松竹に雪つもれる

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223
ガラス使用

特1
2223

国立国会図書館　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『琴後集 15巻』 請求記号 特1-2223

ガラス使用